

# 社会委員会通信

33

2008.11.2

発行：横浜港南台教会 社会委員会

〒234-0054

横浜市港南区港南台 7-8-29

Tel : 045-833-5323 Fax : 045-833-6616

今年の夏は、酷暑の日が続く一方、あちらこちらで局地的ゲリラ豪雨があり、浸水被害もありました。地球環境の変化による異常現象が現実のものとなって、気候にも影響を与えてきているのだと思われます。現代の私たちが抱えている大問題の一つに、温暖化や地球規模の自然破壊や環境汚染の問題があります。これは、既に1960年代から指摘されており、環境破壊の恐ろしさや食料不足の問題が提起されていました。しかし、人間の限りない欲望と傲慢が先進国の経済優先の生き方を許容し、推進してきました。その結果、自然環境の破壊や社会環境の悪化を招き、人間の命だけでなく動物たちの命をも危機に追いやっています。

この現状において、今、私たちがなすべきことは何か？このような観点から、10月の社会委員会学習会は唐崎旬代氏（横浜YWCA理事長・横浜本牧教会員）を講師としてお招きし、「安心・安全な生活環境を創り出すために～水と食の安全保障～」と題として一番身近な水と食について講演していただきました。

講演では、「世界をみつめ、地域に生きる」をスローガンに学んでこられたことからの問題提起、地域の人と共に環境改善に取り組まれてきたことなどを話されました。これから私たちが最終的にどんな価値観を持って、どう生きてゆけばよいのか、一人ひとりの「責任の自覚」の大切さを再認識させられました。どんな小さな事でも日々の暮らしの中で努力を重ね、大切な地球を守りましょう。さあ今から実行しましょう。

参加者は30名(女性20名、男性10名)でした。参加者の皆さんありがとうございました。

(社会委員長：H・T)



安心・安全な生活環境を創り出すために  
～水と食の安全保障～

## 講演要旨

横浜YWCA理事長：唐崎 旬代

はじめに  
私は横浜YWCAの唐崎旬代でございます。  
今日は身近な食と水の話「水と食の安全保障」  
について話をする機会をお与えくださってあ

りがとうございます。また、以前磯子教会や  
本牧教会で一緒だった方々に久しぶりにお  
会いでき、とても嬉しいです。

私は水や食の安全保障について専門家でも

なんでもありません。普通のおばさんです。ただ長いこと YWCA におりますので、人間の安心・安全な生活環境を創り出すために、どんな活動をしたらいいのか、どんな生き方をしたらいいのか、多くの先輩から学ばせていただきました。国際会義や諸々の大会・集会を通して専門家の方々とも出会わせていただき、心から感謝しております。中学生の時に YWCA に入り、YWCA の活動や実践を通して育てていただいたと思っています。

今日、一冊の「環境家計簿～いっしょに始めてみませんか～」を持ってきました。この環境家計簿を日本 YWCA で 1993 年に発行しました。YWCA では「世界をみつめ、地域に生きる」を中心においていましたので、私は世界の現状を考えて、すぐ始めました。しかし、この「環境家計簿」運動は、会員の間でもあまり用いられませんでした。1997 年の京都会議で京都議定書が採択された時です。私は NGO 会議にこの「環境家計簿」を持って参加しました。新聞で全国版家庭欄に取り上げてくれましたが、あまり反響はありませんでした。その後も私は日本の身近な生活環境に関心を持ち「農・林・水・産」について学んできました。

現在、世界中で「水不足、食料不足」が深刻な問題となっています。あなたはコンビニエンス・ストアが無くなり、水が時間給水となった時のことを想像したことがありますか？ 年中無休、24 時間化されたコンビニエ

ンス・ストアは本当に便利です。1 人暮らしの増加、高年齢夫妻の家庭、深夜の仕事の人も、毎日利用している私も、とても助かっています。持ち帰り弁当や惣菜も 1 日 2~3 回の定期便（ルート便）で運んで来ます。無休で 24 時間化の便利な食生活も、行き過ぎると問題も起きてきます。過剰な食料の在庫、廃棄、電力の使い過ぎなど大きな問題です。

水も、横浜の水は世界の中でも「おいしい水」と言われています。地理的にも地域的にもめったに水不足になったことはありません。私の友人の住む香川県では、渇水期の水不足のため、幼児を育てていた時、実家に帰ったほどです。1 日数時間の時間給水となったからです。インド、ネパール、チベット、モンゴルなどでは、時間給水や停電が日常的になっています。今、地球上の私たちが無関心なところで「水疎開・食料疎開」が始まっています。



人類が生き残るためにはこの 10 年が勝負  
地球温暖化のデータから見ると、この 10 年で地球を変えられるかどうか、私たちの未来が無くなるのか、残せるのか、地球温暖化の問題は予想のほか厳しい状況だと未来バンク理事長の田中優さんは言っています。

2007 年 2 月 3 日付インディペンデント紙は以下のように載せています。地球の気温が現在より 2.4 度上昇した場合、アメリカ中心部を中心とした高原が砂漠化する。北米の 5

つの州で農業や牧畜が消滅する。ペルーではアンデス山脈の氷河が消え、1,000 万人が水不足に直面する。海水の温暖化で、世界中で3分の1の生物種が絶滅する。3.4度上昇すると、アマゾンの熱帯雨林で壊滅的な森林火災が起こり、ブラジル国内は砂漠と化す。4.4度上昇すると、北極圏の急速な温度上昇でシベリアの永久凍土が溶解、1億人が立ち退きを余儀なくされ、オーストラリアの農業は崩壊する。5.4度上昇すると、ヒマラヤの氷河が消え、インダス川は干上がる。南アジアの社会は崩壊、世界の食料供給は尽きる。

現在、温暖化が自然災害の破壊力を強めています。1992年に米国を襲った巨大ハリケーン「アンドリュー」、2005年の「カトリーナ」は、史上最大の被害を出しました。集中豪雨や大洪水も世界各地で起きています。ヨーロッパだけではなく、日本でも大きな被害を出しています。また、水没する地域や島が続発しています。皆さんもニュースでご存じだと思います。中国モンゴル地方の砂漠化も深刻で、地下水が涸れ、村ごと移動しています。山火事も続発し、水不足や食糧危機に陥っています。

食料や水の問題も、世界の人口増加に追いつきません。農林水産省の資料によりますと、2008年には世界の人口は約65億人、2050年には92億人となる予想です。2050年には中国は14.1億人、インドは16.6億人、アフリカは20億人となる予想です。

国としての水と食の安心と安全の保障

すべての戦争は「食料・水・資源」の奪い合いで始まります。それは歴史が証明しています。アメリカの大気研究センターは、万一「食料・水・資源の奪い合い」で戦争が起きた場合には、45億人が死ぬかもしれないと恐ろしい予測をしています。

日本政府は、やっと地球温暖化の恐怖に気づいて、重い腰を上げ始めました。なぜか国民もあまり大声を出していません。日本は食べ物を輸入に頼っていますが、輸入は突然止まることだってあります。可能性として、冷夏などの異常気象、作物の不作、輸出国での価格高騰、輸出の制限、港湾スト、有害物質の食品への混入、食品流通の規制等々です。

万が一、食べ物の輸入が止まったらどうするのか、凶作になったらどうするのか、日本政府は万一に備えて不測の事態の深刻さの程度に応じて対応できるように「不測時の食料安全保障マニュアル」を作りました。レベル0からレベル2まであります。レベル1は国民生活安定措置法の適用、レベル2は食糧法の適用で、食料の割り当て・配給・物価統制で1日1人当たり2,020kcal(1955年当時)を保障しようとしています。



まったなしです「地球温暖化対策」・水のこと温暖化、実際に横浜はどうなっているのでしょうか。私の住む中区の例でお話します。私は中区の内でも横浜地方気象台のすぐ近く

に住んでいます。このデータは横浜地方気象台のものです。

横浜はこの100年間で平均気温が2.6度上昇しました。日本では100年間で1度上昇しました。世界では100年間で平均気温が0.7度上昇しています。世界の平均気温は、2100年にはこのままいくと、1.8~4.0度上昇すると予想されています。

この頃、皆さんは夏が長く、夜も暑くてなかなか眠れない、寝苦しいと言います。「仕方なく冷房をつけて寝たのよ」とよく聞きます。データによると、横浜の熱帯夜（最低気温が25度以上）はここ50年で約15日も増えています。寝苦しい夜が多い訳です。冬を見てみますと、横浜の冬日（最低気温が0度未満の日）はここ50年間で約35日も減少しています。私の地域では、昨年も今年も氷は一度も張りませんでした。勿論、霜柱なんて何年も見たことがありません。オーバー・コートも着ないですみます。「今年も暖冬ね、助かるわ」と近所では話しています。でも、喜んでばかりはいられません。2007年2月に「気象変動に関する政府間パネル」が第4次報告を発表しました。その発表で、世界中の科学者が「温暖化の原因は人為的なもの」と言い切っています。もう個人の努力だけではどうにもならない、生き残れない状態になっています。

温暖化を防ぐには軍備や戦争のない社会が必要

温暖化の原因となっている二酸化炭素の削減を言うなら、まず軍縮・防衛費の削減が一番の早道です。日本で一番二酸化炭素を出しているのは自衛隊で、なんと357.4万トンです。二番目が国土交通省で82.7万トン、残念ですが、在日米軍の資料は出してもらえません。勿論、世界中で一番二酸化炭素を出しているのは、アメリカの海陸空軍です。

例えば、装甲車はガソリン1リットルで200mしか走れません。だから、ジョウロでガソリンを撒きながら走っているようなものです。F15戦闘機が全速力で8時間飛ぶと、二酸化炭素排出量は、1人の日本人が生涯出す量に等しいのです。軍事による二酸化炭素排出量は、石油使用だけで世界第6位に位置するレベルです。軍事は私たちの温暖化防止の小さな努力など一瞬で吹き飛ばしてしまうほど、すごい二酸化炭素を排出しているのです。2008年、世界の軍事費1位はアメリカで、日本円で140兆5,000億円です。2位はイギリス、3位は中国、4位はフランス、5位が日本です。



#### 食料のこと

先ほど食料の問題も世界の人口増加に追いつかない、と申しました。世界の食料需給を決める要因は幾つかあります。世界人口の増加、所得の向上に伴う畜産物の需要増加、収穫面積の動向、単位面積当たり収量の増加などです。農産物需給にもっとも大きな影響を

与えるのは人口です。

日本の場合、国土面積の 70%が森林です。人口は 1 億 2,780 万人います。国土面積の割に人口が多いのも特徴です。1 人当たりの耕地面積は 3.7ha、海外に依存している農地面積は 9.7ha、合計で 13.4ha です。国民 1 人当たりの農地面積を他国と比べてみると、日本は各国に比べて極端に小さく、イギリスの約 8 分の 1、フランスの約 14 分の 1 です。限られた農地で 2008 年は食料自給率 40%を維持しています。ちなみに自給率第 1 位はオーストラリアで 237%、2 位はカナダで 145%、3 位はアメリカの 128%、4 位はフランスの 122%です。日本の場合、農業の担い手不足、後継者の無さも大きな問題となっています。

今、世界の食料にかつて経験したことのない変化が起きています。世界人口の増加、中国やインドなどの富裕層の増加、途上国における食生活の変化、エネルギー需要の増加等々、さまざまな要因です。こうした世界の食料事情の変化は、日本の私たちの食卓にも即つながってくる問題なのです。どの国も、自国の食料確保を最優先し、食料の奪い合いとなっていきます。多くの食料輸出国は、「自分の国で足りなくなったから、他国には売らない」と輸出規制に動き始めました。今後、日本が安定的に農産物を輸入することが困難になってきました。日本の重要課題は、どうやって自給率を高めていくかです。



国際的食料問題と私たちの食卓とのつながり、生活の見直し

「私たちの食生活」は、1965 年自給率 73%時代に比べると、大きく変わってきました。国内で自給できるお米を食べる量が減り、飼料や原料を輸入に頼っている畜産物(肉・卵)を食べる量が多くなりました。パンや麺もたくさん食べています。子どもたちに「好きな食べ物は何？」と聞くと、「お寿司、カレーライス、ステーキ、ピザ、ラーメン、ハンバーグ、焼肉、お刺身」と返ってきます。学校給食の食べ残しも「もったいない」とは思っていない。

あなたは毎日食べている食品・材料がどこで生まれ、何日かかって日本に運ばれてくるか知っていますか？例えば、大豆やイモ類はブラジルのサントスからで、輸送に 37 日かかっています。アメリカのニューオーリンズからは 30 日かかっています。小麦はオーストラリアやカナダからで 14 日、えびはタイ・ベトナム・インドネシアが主で、14 日です。この輸送にかかるエネルギーを二酸化炭素に換算すると、大変なものになります。

自給率の話に戻しますと、戦中・戦後の食料自給率は 100%で、1 人平均 1 日 1,400kcal でした。皆、お腹が空いて大変な時代でした。配給品も偏っていました。1965 年当時は自給率 73%で 2,300 kcal、2003 年は自給率 39%で 2,588 kcal と増え、栄養バランスの改善や食べ残しが問題になってきました。2008 年

にはやっと 40%となりましたが、1人平均1日 2,400~2,500 kcal 以上摂っていると思います。

そこで、私たちにすぐできる生活の見直しは、食品ロス(食べ残し)をなくすことです。農林水産省の食品ロス調査(2006年)によりますと、食べ残しや賞味期限切れなどに伴う廃棄などのロス率は、単身世帯が 6.4%で最も高く、次は2人世帯の 4.0%でした。料理を食べ残した理由は「量が多かったから」が 70%。皆、廃棄物となっています。

毎日多量に出る食品廃棄物。食品廃棄物の 55%は一般家庭から出たもの、次に多いのは食品産業から発生したものだそうです。これらの大量に発生した食品廃棄物にも、生産や輸送・調理までに多くのエネルギーを消費しており、二酸化炭素を排出しています。



おわりに

いろいろ話してまいりましたが、私たちにできる一番身近な温暖化対策は、毎日の生活の見直しです。横浜市で挙げているものも幾つかあります。クールビズやウォームビズを

取り入れ、冷暖房の設定温度を工夫しましょう。主電源を切りましょう。歩いたり、自転車を使いましょう、健康にいいですよ。お湯やお水を流しっぱなしにしないようにしましょうなど、できることから始めてみようと呼んでいます。

私が家庭で最も有効な温暖化対策と思うのは、「地産地消」です。食べ物とお水からです。もう私たちには時間はあまりありません。これ以上地球環境を乱さないために、子どもたちに夢と希望のある美しい地球を残すために、100年先のことを考えて、小さな行動でも継続していきたいと思います。お一人お一人の行動が必要です。一緒にやりましょう。

今日は、今まで活動してまいりましたことや進行中の問題を私なりに「問題提起」させていただきました。私の話をお友だちやお隣の人に一つでもいい、お話しください。今必要なのは、世界中の気づいた人々が手をつなぐことです。

本日はご静聴いただき、ありがとうございました。



#### 社会委員会からのお知らせ

12月の社会委員会の活動は、例年通り寿町の支援を行います。

毛布、使い捨てカイロ、防寒着、下着類、男性用セーター・ズボン、米、味噌、調味料、タオル等の献品のご協力をお願いします。

受付期間：11月30日(日)～12月14日(日)